

長野県 まちづくりボランティア フォーラム2023

報告書

令和5年(2023年) 12月1日(金) 諏訪市文化センター
12月2日(土) 長野県福祉大学校



長野県社協 まちづくりボランティアセンター

ずくとあいがあるもんで みんなで ヨイサ!



学生も、子どもたちも、ママも、パパも、
おじいちゃん、おばあちゃん、おひとりさまも、当事者も
ちょっとずくを出して、新しい人、新しい場所、新しいグループとつながることで、
温かい言葉をかけあい、「やってみよう」「やらなきゃ」との思いが増し、
ささえあいや地域への愛につながります。
その先に「地域共生社会」はきっとくる!
「ずく」と「あい」があふれる諏訪で、あなたもヨイサ!

諏訪市木遣保存会の皆さんによるオープニングでスタート!

CONTENTS

1 日目 諏訪市文化センター

1部 オープニング

- 02 ずくとあいがあるもんで
みんなで ヨイサ!

04 オープニングセッション

ずくとあいがつくる “居場所”

2部 明日につながる入り口

- 06 a 幻燈〜く(げんと〜く)
県内まち歩きから見てきたこと
- 08 b サスながのが行く!
防災・企業・社協交流会

2 日目 長野県福祉大学校

- 10 分科会 1 簡単ルールで! ボッチャ体験リーグ戦
- 12 分科会 2 大切なことをあきらめない ~私らしく暮らしを彩る~
- 14 分科会 3 世代間交流! 子どもからお年寄りまで楽しめることって?
- 16 分科会 4 住民の力・ボランティアの力 人間と動物の関係を考える
- 18 分科会 5 災害ボランティアセンターの力を信じて 防災・企業・社協の連携を語ろう!
- 20 分科会 6 物価高にまけるな 信州に広がる助け合いの輪!
- 22 諏訪圏青年会議所プレゼンツ炊き出し and 座談会ミーティング
- 23 まとめセッション
ずくとあいがつくる居場所 “助け上手・助けられ上手” のすすめ



開催挨拶

開催趣旨



登壇者

小林 庄三郎 氏

原村社会福祉協議会 会長

このフォーラムは、この地域に暮らす人たちが支え合いよりよい地域にしようという志を持った仲間たちが思いやりや実践を共有し、つながりをつくる場として開催しているものです。

長野県は広く、それぞれの地域にそれぞれの文化と歴史、そこに根ざした地域活動があります。県下各地から集まった皆さんが大いに語り、それぞれの地での活動を共有し、**これからの活動へのヒントを得て地域づくり、まちづくりにつなげていただく**ことを期待します。

ボランティア活動も、自分たちの暮らしを豊かにするまちづくりや自然保護、防災、防犯など多種多様化しております。**住民自らが参画することにより、より魅力ある地域の活動が生まれてきています。**

今回のフォーラムを通じて得たことを、それぞれの地域に持ち帰り、日々の活動に取り組んでいただければ幸いです。

オープニング ビデオメッセージ

メッセージ

申請制度の壁を越える“お節介”のススメ

今ボランティア活動をする人が少なく約1割と言われていました。令和2年からのコロナ禍で、ボランティアの方々が出会い、交流する活動が停まり、私は「暗黒の3年間」と呼んでいます。「ソーシャルディスタンス」という言葉が死語になることを切に祈ります。

なぜ、ボランティア活動や市民活動が重要になるのでしょうか。**お節介**という言葉があります。学校の授業で学生にたずねると、約9割がお節介は悪いことというイメージを持っていました。

お節介の本当の意味は、「**節度ある介**」。介入の介で、「なかだち」とも読めます。つまり、**必要な時に仲立ちを行う人**のことです。地域の中で社会的に弱い立場の人たちや生きづらさを抱えている人たちに必要に応じて関わっていく。**お節介さんとは、目配り、気配り、心配りができて、他人の困りごとを放って置けない人**のこと。そんなボランティア精神の溢れるお節介さんが地域の中に一人でも増えていくことはとても大事だと思えます。

社会的孤立が大きな社会問題になっています。公的な福祉は、本人・家族からの申請がなければ手をつけることができない**申請制度**です。どんな困りごとを抱えている人がいても、「お節介しない方がいい。本人が言うまで待ってごう」。そんな状況が非常に厳しい社会的孤立を生んでしまいます。

私は真のお節介とは**申請制度の壁を越える予防的支援、問題が大きくなる前に積極的に関わっていくボランティア精神**が社会を支えていくと考えています。

さまざまな人たちと手をつなぎ、**誰も排除しない社会、誰も独りぼっちにしない社会を積極的につくろうと行動する人**がボランティアです。

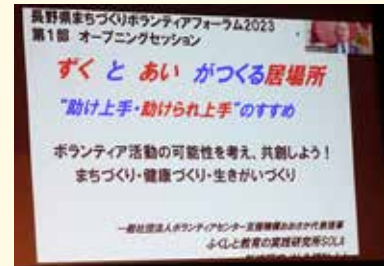
ふくしは笑顔づくりです。「ありがとう、助かった」「あなたのおかげで、私は自己成長できました」そんな喜びの声がボランティアの原動力になります。

「人は必要とされることを必要とする」(エリク・H・エリクソン)。私が大好きな言葉の一つです。



新崎 国広 氏

(一社) ボランティアセンター支援機構おおさか
ふくしと教育の実践研究所SOLA(Social Labo)主宰



ボランティアの役割

誰も排除しない社会、誰も独りぼっちにしない社会を積極的につくろうと行動すること、それがボランティアです。ボランティアの役割は大きく分けて次の4つがあると考えます。

- ①相互実現型自立への援助者・支援者の役割
- ②社会との架け橋との役割
- ③生きづらさを抱えている方々を代弁し、
ソーシャルアクションという役割
- ④ボランティア自身の自己実現・生きがいづくり

これからのボランティア活動や市民活動、地域福祉活動は、汗も出すし口も出す。皆さんが実践して感じたこと、「**もっとこうの方がいい**」「**こういう制度をつくってください**」「**もっとより良い制度にしませんか**」と、行政や専門職に働きかけていくソーシャルアクションもとても大切な役割です。

そして、参画するのに資格はいりません。参加で終わるのではなく、それを**一緒に計画したり、企画することが最も楽しく心が元気になります。**

今回のフォーラムでは、みんなが集まり、とっても素敵なことができると思っています。これからの世代を担う若者も含めて、いろいろな話し合いをする中で、この2日間でボランティア活動の楽しさや大切さを学んでいきたいと思っています。

ずくとあいがつくる“居場所”



「一住民、移住者、起業家と、立場は違ってもずくとあいにあふれる思いは共通ですね！」

進行

長峰 夏樹

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター所長



生活困窮の広がりやコロナ禍の影響で、人と人がつながる居場所が求められています。子ども食堂などの地域の居場所。地域おこし協力隊が運営する町民活動の拠点。起業家がつくる若者の居場所など。様々な立場の実践者が居場所をキーワードにあいあふれるトークを繰り広げました。

活動報告 セッション

活動報告 (地域のボランティアから)

誰かが仕切ることなく、自分で役割を決め、みんながやりたいことを話し合いながら運営するゆるやかさが、ふじやの良さです。



安積 順子さん

登壇者

まちの駅ふじや
子ども食堂ボランティア



渡邊 啓子さん

ふじやは私たちボランティアにとっても居場所になっています。私も新しい居場所の立ち上げを計画中です。



まちの駅ふじやは箕輪町の最初にできた居場所。その後、どんどん町中に広がっています。

まちの駅ふじや (箕輪町)

町の中心街、木下区で空き店舗をつながりの力で地域のために活用しようと、町社協を介して住民有志やさまざまな団体が集まり、2020年5月に木下に新しい居場所をつくらうプロジェクトがスタートしました。

2回目の立ち上げ協議では箕輪進修高校ボランティア部の生徒が参加し、どんな場所とステキな場所にしたいのか、ワークショップを開催。仕事体験や相談、学習、健康づくりができる場などの意見が出て、おもてなしの心を大事にする場を目指すことになりました。

そして10月、多世代協働の地域交流プラットフォームを掲げ、まちの駅ふじやをオープン。コロナ禍でもできることを始めようと、放課後の子ども食堂、朝の子ども食堂、困窮している家庭の中高生に食と学習の提供するふじや無料塾の取り組みははじめました。今年6月から、誰でもいつでも参加できる「まんぶく食堂」を毎月開催しています。



子ども食堂では高校生が調理と学習支援でボランティア参加



駅前で高校生におにぎりを配ることから始まった朝の子ども食堂。

活動報告 (地域おこし協力隊から)

地域共生センターふらっと (富士見町)

ふらっとは、さまざまな相談に対応したワンストップの窓口と、障がいのある方や高齢者、子どもなどの居場所づくり、地域活動支援を3本柱にした地域福祉の総合拠点として今年6月に誕生しました。

1階は相談窓口や誰でも自由に利用できる交流スペース、2階は調理室と地域活動などができる貸しスペースがあります。オープン後は、放課後の居場所として毎日子どもたちが来所し、自習室や夏休み・クリスマスイベント、多世代の地域交流イベントを開催。駅前商店街との関係づくりも進めています。



駅前商店街にあった旧八十二銀行の建物を活用。運営は箕輪町と箕輪町社協が協働して行っています。

まだ利用の少ない近所の方や高齢の方にも、気軽に来ていただき、憩いの場、活躍の場につなげていきたいです。



登壇者

地域共生センターふらっと運営
富士見町地域おこし協力隊

落合 萌貴さん

千葉 友里子さん



「子どもの表情が明るくなった」「心の拠り所になっている」という声をいただき、ふらっとに自分らしさを出せる居場所の力を感じます。



地域の大人とクッキーづくり
夏休みのイベントで



ふらっと自習室
地域のボランティアが学習をサポート

活動報告 (起業家から)

その人にあった就労の場、活躍できる居場所(生きる場所)を創り出し、一人ひとりの働きたい想いをカタチにします。



登壇者

高橋 純さん

就労移行支援事業所 Mirai 代表
諏訪圏青年会議所 2023年度 理事長

Miraiでは、対話を重視して信頼関係を構築し、特性に合った機会を提供しています。



様々なジャンルの体験先

就労移行支援事業所 Mirai (諏訪市) / 諏訪圏青年会議所

Miraiは、「誰一人、取り残すことのない社会の実現」を理念に掲げ2021年4月に開所しました。一般就労を希望する方を対象に事業所内や企業における作業や実習、適正にあった職場探し、就労後の職場定着のための支援を行なっています。

50社を超える企業、行政、社協と連携し、障がいのある方以外に、ひきこもりや更生保護対象などにも活躍の場を幅広く創出し、その人の特性に合わせながら農業や建築土木、自動車、飲食、クリーニングなどの仕事の機会を提供しています。また、グループホームを開設し、そこから自立し、包括的に生活再建・人生再建ができる居場所づくりも進めています。

一方、諏訪圏青年会議所では2023年度事業の一つとして、勉強会や講演会などを通じ、更生保護を含む社会保障の実情や課題を調査。活動をまとめて長野県に、支援拡充への連携強化、体制構築を提言しました。

諏訪圏青年会議所主催の諏訪圏フォーラム。「人」「場所」「コト」が交流できる機会を提供。



寄ってらっしゃい
見てらっしゃい!

出張中! まちの縁側

諏訪エリアで活動中のまちの縁側が会場フロアに大集合しました!

- まちの縁側ビオレホール
- 諏訪シニア賛助会みづうみの風
- ホビーショップ丸信
- 大阪屋薬局
- みんなの居場所ゆめひろ
- 富士見町地域共生センターふらっと

a

幻燈～く（げんと～く） 県内まち歩きから見えてきたこと



まちの縁側は、すぐ身近に、たくさんあります。知らずに縁側の役割をしているヒトがいて、地域には縁側になる資源が豊富にあります。

各地に広がりつつあるまち歩きの取り組み
多様な居場所としてまちの縁側、
暮らしの中で、どんな場所になっているのか、
どんな人のつながりがそこから生まれている
のかを知り、一緒に考え、これからの地域づ
くりについて話し合いを深めました。



ファシリテーター

内山 二郎氏

まちの縁側育みプロジェクト
ながのメンバー
長野県長寿社会開発センター
理事長

幻燈～く



幻燈師見習い神田さん
(中野市社協)による
まちの縁側講座の定番「幻燈～く」でスタート。



まちの縁側とは、ヒトとの出会い、楽しみや食べ物、伝統行事や自然環境など
「ヒト・モノ・コトが緩やかにつながりあう地域の居場所」です。

気軽に集まって話のできる、縁側のような場所。

縁側では、ゆるやかに人が出会い、小さな困りごとの発見につながったり、
楽しいことが生まれたり……。

まちの縁側講座では、まちの縁側とは何か、それはどこにあるのか、
どうやって知ることができるのか、「縁側めがね」をかけてまち歩きをします。
さあ、みんなで縁側探しに出かけましょう！

活動報告

活動報告

地域には「こんなにすごい価値がある！」と
再発見し、共感できる「縁側めがね」の
掛け方をみんなで共有することが大切です。

登壇者

神田 秀一さん

中野市社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター



デイサービスセンターなどを利用していない
高齢者も気軽に集まれる場所になればと思い
始めました。みんなの輪が広がればいいですね。

登壇者

酒井 忠雄さん

『憩いの場 縁側』縁側人



憩いの場 縁側 (中野市)

中野市社協では、まちの縁側育み隊を講師に迎え、まちの縁側講座を開催しています。活動は今年で3年目、これまで市内12地区中、7地区でまち歩きを通してヒト・モノ・コトを発見してきました。

酒井忠雄さんは、昨秋、講座に参加したことをきっかけに自宅を開放し、妻の勝子さんとともに『憩いの場 縁側』を始めました。縁側には、気軽に運動ができるよう筋トレ器具を設置し、カラオケ、やマレットゴルフなどが楽しめます。

長引くコロナ禍で住民同士のつながりが希薄になる中で、酒井さんの縁側は、新聞やテレビにも取り上げられ、話題になりました。



活動報告

宝は磨かなければ光りません。
埋もれた地域の宝物を見つけ、
磨き上げ、光る宝にしたいです。



オンライン参加
馬場 博直さん
箕輪 義則さん
“ずく”りの会



“ずく”りの会通信

“ずく”りの会 (立科町)

たてしな“ずく”りの会(立科町地域支援づくり推進会議)は、住民同士が助け合い、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを目指し活動しています。

今秋、自分たちの暮らすまちをもっと知って地域の可能性について考えるきっかけづくりとして、まちの縁側講座in芦田宿を開催しました。

地域の居場所づくりに関心のある地域住民26名と蓼科高校地域コースの3年生30名が参加。若い世代の目線でまちづくりを考えました。

景色がよく、お年寄りにやさしい場所など地域の魅力をいろいろ学べて楽しかったです。12月には僕たち主催のまちの縁側を開催します。

オンライン参加

長野県蓼科高等学校
地域コース3年生のみなさん



昨年から地域住民と高校生のつながりが生まれ、今後、蓼科高校もまちの縁側として一緒にできる活動ができたらいいなと思っています。

オンライン参加

田中 さち美さん
立科町町民課 高齢者支援係



活動報告

県シニア大学でまちの縁側活動を知り、
実家を開放して縁側人になりました。
趣味の和楽器やレコードを活かし活動中です。

登壇者

両角 忠幸さん

登壇者 すわ日和 縁側人

中島 智佐子さん

諏訪市社会福祉協議会



困りごとをプラスに変えるきっかけにすることもまちの縁側の楽しみ。これからも「まちえんさん(縁側人)」とつながり続けます。

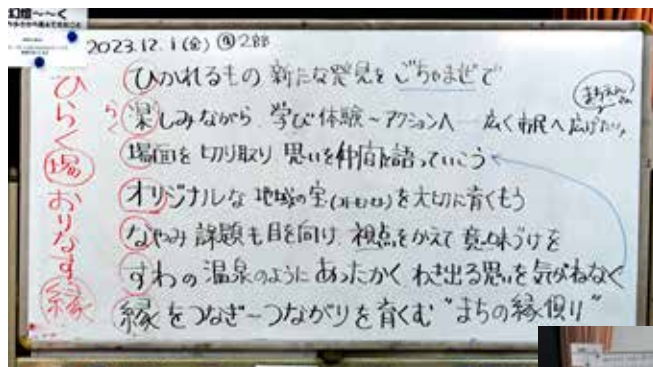
すわ日和 (諏訪市)

コロナ禍で地域のつながりが薄れている状況の中、「諏訪ではまちの縁側はしないのか」という話題がきっかけで、すわ日和の取り組みが始まりました。

諏訪市社協では、まちの縁側育みプロジェクトながのとともに、第1回目のすわ日和講座を昨年開催し、社協職員とともに地域住民ら18名の参加者がまち歩きをし、縁側の取り組みや役割について一から学びました。好評を得て第2回目のすわ日和講座を10月に開催。今後、市民に広く周知していくためにワークシート展示や『すわ日和だより』の発行、ステッカー作成、講座開催などの取り組みを企画中です。



まとめ



「頭韻要約法」による話し合いのまとめ。
まち育てのキーワードは「ひらく場おきなす縁」になりました。

参加者から

まちの縁側はフォーマルな場でないので、本音が聞けたり、地域の課題が見えたりします。困りごとを相談された場合、社協や行政につなぐ場にもなっています。

神戸からの移住者ですが、まちの縁側の取り組みを初めて知りました。信州は大きな家が多く、縁側として快く提供する方々も地域の宝だと思います。

まちづくりに関わっています。子どもたちとまち歩きはしていますが、まちの縁側の視点はなかったので、今後そういう場所が作れたらいいなと思います。作ってしまった酒井さんはすごいです。





サスながのが行く！ 防災・企業・社協交流会



令和3年8月の大雨により開設された「諏訪市災害支えあいボランティアセンター」は、諏訪市社協、諏訪圏青年会議所、諏訪防災ネットワーク等により協働型で運営されました。

それぞれの役割と協働のポイントを整理しながら、DSAT（長野県内社協災害ボランティアセンター運営支援者）やサスながの（災害ボランティアセンター応援企業パートナーズ）、そして、全国域で災害ボランティアセンター支援活動を展開する企業（トヨタ自動車株式会社）が加わり、今後の「防災・企業・社協」の大連携に向けたトークセッションを行い、2日目の分科会につながりました。

活動報告

活動報告

災害ボランティアセンター 応援企業パートナーズ サスながの

企業と社協がパートナーシップを組み
災害支援の想定外の事態に対応します。

進行

山崎博之

長野県社会福祉協議会



令和元年台風第19号災害では、8万人を超えるボランティアの力が長野県内の被災地の復旧・復興を支えました。自然災害の多発化、激甚化が懸念されている昨今、被災市町村の災害ボランティアセンターの支援活動が想定外の事態に直面した際に、行政、社協のルートだけでは、解決することが難しい状況があります。

そこで、企業が災害ボランティアセンターの運営の中核を担う社協とパートナーシップを組み、災害に強い地域づくりに貢献していくため、「サスながの」をスタートさせました。

サスながのが目指すものは、特に、災害ボランティアセンター立上げ期に起こり得る「想定外」の事態に対して、幅広いネットワークを持つ「企業」が、「プレーン機能」を発揮できるようなパートナーシップづくりです。

こうした「連携ネット」の立上げ支援を長野県全域で広げようと県内10ブロックにおいて取り組みを推進していきます。

当社と契約いただいている様々な業種の
多くの企業様にお声がけをしています。



登壇者

田村 哲平さん

損害保険ジャパン（株）長野支店
法人支社（サスながの事務局）

損保ジャパン長野支店は、長野県社協とともにサスながの事務局をしています。ボランティア活動保険を取り扱っている関係から、サスながの設立のお話をいただき、ぜひその思いを形にしたいと連携しました。

当社と契約されている多数の企業に提案したところ、金融、建設、運輸、製造などさまざまな業種の企業に参画いただき、2022年10月に発足しました。

現在県北の企業がメインですが、今後、県内さまざまな地域でさらにご賛同いただける企業を増やしていきたいと考えています。



今年5月に行われた「サスながの」キックオフミーティング。全国でも先進的な取り組みで、銀行や建設、製造などの10団体が参加。

事例報告

諏訪市災害ボランティアセンター

令和3年8月の大雨災害における「諏訪市災害支えあいボランティアセンター」の報告から、災害ボランティアセンターを軸にしなが行政×企業×社協の連携のあり方について検証しました。



災害ボラセンの運営では、朝夕のミーティングが重要でした。

登壇者

笠原 敏彦さん

諏訪防災ネットワーク



発災当初は避難所開設に関わり、その後、**災害ボラセンの設置・運営支援**と**災害ボランティア活動**を行いました。

災害ボラセンの準備段階では、困りごとのニーズ調査・チラシ配布を実施。開設後の運営では、**朝夕のミーティングが大変重要**でした。**どんなニーズがあり、どれだけのボランティア数が必要なのかを把握**し、活動につなげました。

しかし、当団体は結成1年目で、運営において十分に力を発揮できなかったため、市社協とともに**災害ボラセン運営者研修**を開催するなど、今後に向けた協働の取り組みを続けています。

地元の人たちによる団体の強みで
地元目線で被災者中心の支援活動を展開

登壇者

大羽 伸弥さん

諏訪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
事務局福祉係



諏訪市災害支えあいボランティアセンターの立ち上げに際しては当初どうしたらよいかかわからない状況の中、**長野県社協**の協力で立ち上げました。**諏訪防災ネットワーク、諏訪圏青年会議所に共同運営**を担っていただき、様々な技術や知識を持った方がいて、大変助かりました。**地元の人たちによる“地元目線”**での被災者中心の支援活動を展開することができました。

マンパワー、車両機材、物資、企業間のネットワークを活かして支援しました。

登壇者

金田 正隆さん

(公社)諏訪圏
青年会議所 常任理事



諏訪圏域の社協と**災害協定**を2014年に結んでいる諏訪圏青年会議所は、8月の豪雨災害でも、コロナ禍で地域外からの活動は制限されている中、諏訪全域からJCメンバーを集めてボランティアに参加しました。**若手や建設業のメンバーも多く**、数日後に土砂災害が発生した下諏訪町や茅野市でも、**軽トラなど車両によるごみの搬出、土砂の撤去、駐車場手配**など、人海戦術と重機等で大規模な作業にあたりました。

ディスカッション

長野市の令和元年の台風災害では、廃棄物運搬の車両の手配が進まず、軽トラボラの募集に切り替えました。JC(青年会議所)さんからの車両提供という発想はなかった。**発災初期のニーズに対しては**、行政は公平性が先に立つが、**企業や民間の団体との相性はすごい**。ピンポイントでスピーディーに連携して**対応**できる。実践を積み重ねていくことで、制度的な支援などが追いついてくるとしています。

報告をお聞きして、**子ども食堂や福祉のイベントにも、JCさんや企業の方が日頃から関わっていただけると、災害時にもそのつながりが活きる**ので、そんな輪が広がっていくといいと思いました。



小野 貴規さん

長野市社会福祉協議会
ボランティアセンター 係長

令和元年東日本台風の時に、私は内閣府に出向して防災担当の立場で、**行政、社協ボランティアとNPOの三者連携の役目**を担い、長野市災害VC運営の支援に入りました。**大災害ほどニーズが多く、順番待ちになってしまうことがあるので、特に重機を扱うボランティアほど活躍の場は多い**と思います。企業でボランティア活動に参加した方は、担当役職が変わっても、**経験を次の代につなぎ、継続した活動を広げていける**のではないかと思います。



諸留 逸さん

トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部
共生社会推進室 モビリティフォーオール
グループ グループ長



豪雨災害でJCの方々には連絡調整なども担っていただきました。その後、地域のお祭りや行事で声をかけてくださるなど、**平日頃の関係はとても大切**だなと思います。(諏訪市社協職員)



11月に「すわけん防災フェアin富士見町」では、自衛隊やJCの方々の活動を見て、**何をしているのかを知り、災害時以外でも、今後、連携しているいろいろなことができる**と思いました。(富士見町社協職員)

第5分科会
18Pへつづく

簡単ルールで！ ボッチャ体験リーグ戦



パラスポーツ、ボッチャを地域の活動でもやってみるきっかけづくりにと、ボランティア交流集会とあわせて諏訪ブロック社協が企画。より広くみんなが楽しめるようにオリジナルルールで、諏訪圏6市町村の73人が16チームに分かれ、4つのコートでリーグ戦を行いました。



ボッチャ体験リーグ戦

パラスポーツのボッチャを体験し、諏訪圏内のボランティアが交流しました。

ボランティア交流研究集会事務局

関 優里香さん

原村社会福祉協議会



ボッチャ (Boccia: イタリア語でボール) は、年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。ヨーロッパで重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案され、1988年ソウル大会からパラリンピックの正式種目になっています。

今回は、基本ルールをより簡略化したルールで交流を目的に行いました。

諏訪地域では、高齢者クラブの活動や、地区サロンで取り入れられ、**高齢者の健康増進**につながっていることから、この体験を通じ、各市町村でボッチャが広がっていくことを期待します。

今回のオリジナルルール

- ◎基本ルールをより簡単にしたルールにて実施。
- ◎1チーム2～6名でチームを編成。
市町村ごと全16チームがリーグ戦でプレイする。
- ◎1チーム最低3試合は体験できる。
- ◎チーム割りは事務局(原村社協)が行う。

日本代表選手権出場の山田舜選手がデモンストレーションを披露しました！



ランプと呼ばれる補助具を使って。



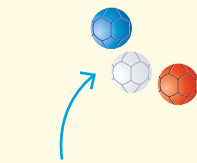
ボッチャとは？

重度の身体障がいがある人のためにヨーロッパで考案された競技で、ルールは冬のスポーツであるカーリングに似ています。

最初に投げたジャックボール（目標球）とよばれる白いボールに、赤と青の6球ずつのボールを交互に投げたり転がしたりして、どれだけ近づけるかを競います。

障がいがあるために自分でボールを投げられない選手は、介助者を使って「ランプ」とよばれる補助具を使ってボールを転がしたりできます。

そのため、ほぼ全身が動かさなくても指や口にくわえた棒でボールを押し出したり、目線などで介助者に意思を伝えらることができれば、ボッチャに参加できます。



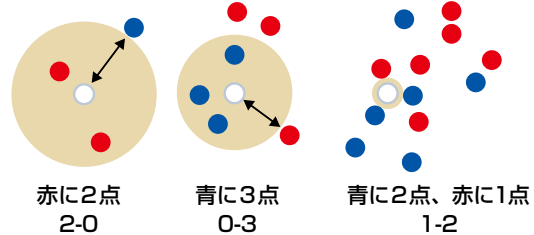
白がジャックボール

ボッチャのルール

赤・青のそれぞれのボールを6球ずつ、投げたり、転がしたり、ほかのボールに当てたりして、白のジャックボールにいか近づけるかを競います。

- ①先攻の人がまず、ジャックボール（白球）を投げ、続けて持ち球（赤球）を1個投げる。
- ②後攻の人が持ち玉（青玉）を1個投げる。
- ③以後、ジャックボールに近い方がボールを1個ずつ投げ合う。
- ④6球すべて投げ終わったら得点をつける。

【得点例】 ジャックボールに近い方が勝ち。そして敵ボールよりも何個近づけられたか、その個数が得点となります。



参加団体

ボッチャ三人衆

個人でお申込みいただいたみなさんです	
吉田 みのり さん	個人参加
牛山 好友 さん	ストレッチ体操の会
浜 邦彦 さん	個人参加

諏訪市・茅野市・岡谷

体操サロン いずみ

月2回 金曜日 13:30~15:30 原村地域福祉センターにて体操と参加者で考えたレクレーションを楽しくしています。

自分たちのペースで楽しく！

11月からボッチャを2日間練習してきました。

原村

木の間にこここサロン

笑顔で楽しく！

月に1回 公民館にて、ラジオ体操・諏訪郡歌体操とボッチャ・輪投げなどを楽しくしています。

富士見町

子ども里山広場

私達は、子どもが自然の中で自由に遊べる遊場所をつくり見守っています。

子ども達の心豊かさを育て、土に親しみます。

岡谷市

こなしの会

諏訪市

諏訪市

金曜 ボランティア

諏訪市

諏訪市

あかそう湯の里

諏訪市

諏訪市

運動 サロン ほっこり

原村

原村

富士見町 民見協

富士見町

富士見町

矢ヶ崎連

地域でもボッチャを楽しんでいます。今回は、少しだけ練習してきました♡

茅野市

茅野市

地域福祉ボランティア

岡谷市

岡谷市

team 下諏訪

下諏訪町

下諏訪町

チームボラ協

岡谷市

岡谷市

諏訪市 ボランティア

諏訪市

諏訪市



みんなでボッチャと談笑を楽しみ、交流しました。

ハラスポーツの体験は福祉教育として共生社会への理解を深めます。障がいがある人も高齢者も楽しめるユニバーサルなスポーツです。参加者の皆さんも、「今日はがんばります」と競技前から張り切っておられ、生きる意欲が伝わってきました。



大切なことをあきらめない ～私らしく暮らしを彩る～



ユニバーサル・サポートすわ×地域づくり実践者が企画。年齢・障がいなどにかかわらず、私らしい暮らしとして、趣味・お出かけ・チャレンジ・楽しみなど、暮らしを豊かにし、彩りある地域社会について語り合いました。

あきらめずにやりたいことを一生懸命にやる姿を見て、私たちサポーターも元気づるおいをもらっています。



コーディネーター

古村 尚子さん

ユニバーサル・サポートすわ

事例報告

事例報告

ユニバーサル・サポートすわ

「できることではなく、やりたいことを」
トラベルケアサポーターは
あきらめない人生(たび)のお手伝いをします。



スピーカー

牛山 玲子さん

ユニバーサル・サポートすわ

ユニサポすわは、障がい・年齢に関係なく、誰もが「できることではなく、やりたいことを！」をモットーに、看護師や介護福祉士によるサポートで外出支援や入浴サポートなどの保険外サービスをしています。

諏訪をはじめ、信州は全国屈指の温泉県です。各地の旅館やホテルに働きかけ、観光と温泉医療と介護のユニバーサルツーリズムのサポーターグループを増やし、心のバリアフリーを広げ、信州を元気にしたいと思っています。医療的ケア児の入浴介助、ユニバーサルウエディングやメモリアルフライト(飛行機旅行)もご家族に喜ばれています。



ユニサポすわによる入浴(温泉)サポートは大好評

移動支援のおかげで、いろんな経験ができるようになり、毎日の暮らしが楽しいです。



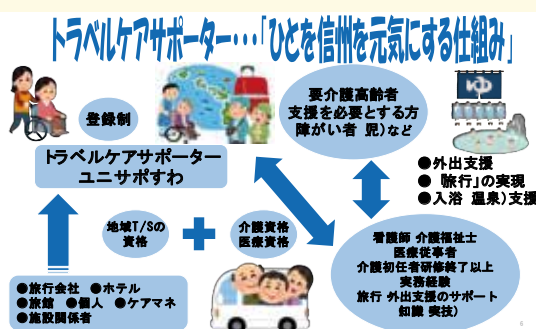
グループホームの仲間と高原

スピーカー

上原 早織さん・信子さん(親子) 車いすユーザー

ユニサポすわさんの移動支援のおかげでいろいろな場所へ出かけることができ、田植えや足湯などは初めての体験で感謝しました。自然が美しい富士見高原には何度も行きたいので、体力づくりをがんばりたいです。そして、私も誰かの役に立つことをしていきたいと思っています。(早織さん)

早織はグループホームで生活していますが、行きたい場所がたくさんあって、私と夫だけでは希望をかえられないので、移動支援のお手伝いしていただけるのは大変助かります。自分がしたいと思う体験をした娘の嬉しそうな顔を見ると本当によかったです。(信子さん)



チャレンジ 絆 プロジェクト

チャレンジし続ける加藤さんの生き方に共感し、サポートメンバーになりました。



スピーカー
星野 光秀さん
チャレンジ 絆プロジェクト
サポーター、養護学校教員

加藤幸久さんは15年前に病気で車椅子生活となり、大好きだった趣味の登山も諦めました。しかし、山への思いは断ち切れず、**車椅子で八ヶ岳登山に挑戦しよう**と一人でプロジェクトを立ち上げました。

加藤さんの生き方、プロジェクトに賛同した信大山岳部の学生さんや介護士の方など、県内外から現在**15人くらい**の仲間が集まり、2024年夏の八ヶ岳縦走に向けて準備を進めています。

人数は多ければ多いほど面白いと思いますので、ご賛同いただける方はぜひご参加ください。

私は山が好きなんです。大切なことを諦めない。それが実践できていることを支えてくれるメンバーに感謝しています。

スピーカー（ビデオメッセージ参加）

加藤 幸久さん チャレンジ 絆プロジェクト キャプテン

山に囲まれた信州の美しい自然を見ていると、「山のことを諦められない」と思っております。車椅子で挑戦することは容易いことではないけれど、**仲間とともに楽しめることをこの世の中に増やしたい。同じような想いや夢を諦めない心を持ち続けている方々の夢の実現にも勇気と希望を届けたい**と思っています。

アウトドア用の車椅子ヒップを利用する加藤さんとプロジェクトメンバー。



ふりかえり

コメント

垣根を超えた人と人との出会いが人生を豊かにする学びとなり社会は変わっていくと思います。

コメンテーター

福澤 信輔さん

文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室



文科省では「**障害者の生涯学習の推進**」に取り組んでいます。今日のお話のように早織さんや加藤さんがやりたいことをまわりの皆さんがサポートして一緒にその夢を実現をしていく。そこから新たな出会いや人とのつながりが生まれ、生きていてよかったなと人生を豊かにしてくれる。これも生涯学習です。

地域の中に**そうした違いを知る場や学びの機会を増やすことで、社会は変わっていく**のだと思います。

以前、広報誌に書いた原稿で「障がいをお持ちの方」という表記にしたところ、一般の方から「障がいは持ったり下ろしたりできるのか」と言われ、「障がい者」もしくは「障がいのある方」に変えました。でも、障がいは本人ではなく、**社会の中にあります**。そして今日の発表を聞いて、障がいは、技術や人の手、地域によって、持ったり下ろしたりすることができるのだと改めて感じました。

総司会

川崎 昭仁

長野県社会福祉協議会



参加者から

●ユニバーサルツーリズムやトラベルケアサポーターの活動を初めて知り、興味が湧きました。**自分も障がいのある方の支援に参加してみたい**と思いました。



魔法のチョーク キットパスで、「この後、何ができるか、何をしようと思うのか」をカードに書き、隣の人と発表しあいました。

●宿泊施設のバリアフリー化を進めても、人の気持ちが変わらなかつたら面白さはありません。早織さんが外出し、その**楽しそうな様子をみんなが知る**ことによって、まわりの人の**気持ちが変わってきた**ことは、すごく大きなことだと感じています。
(古村尚子さん)



大切なことはあきらめない——これは高齢者や障がいのある方々の社会参加だけではなく、**経済的に厳しい子どもたちにも届くメッセージ**だと思います。自分の気持ちを理解してくれる**ユニバーサルツーリズムの応援団がたくさんいる**ことは、とても力になると思いました。



世代間交流！

子どもからお年寄りまで楽しめることって？



保育学科と介護福祉学科のある福祉大学校の学生と参加者の皆さんとで作る、世代をごちゃまぜにしたトークセッション。新たなつながりや地域づくりのヒントが生まれる場となりました。

まちづくりやシニアの活動支援など、地域の特色を活かしながら、たくさん人や団体をつなぐ働きをしています。グループで世代を超えて話しましょう！

コーディネーター

和地 忍さん

長野県長寿社会開発センター諏訪支部
シニア活動推進コーディネーター



話題提供ライブ

話題提供

小海おはなし本舗

小海町に伝わる昔話や伝説を紙芝居で伝えているグループです。

菊原 修一さん・井上 栄一さん

小海おはなし本舗

紙芝居との出会いは15年前に長野市の「歴史の町長野を紡ぐ会」に偶然出会ったこと。地元の小海町でもこの取り組みができないかと考えました。第1作目は「松原湖の竜」。その後、賛同者が増えるとともに、積極的に活動を展開しています。



長野県福祉大学校 保育学科の皆さん

福祉大は、「しあわせ」を学び、保育や介護などの分野でみんなの「しあわせ」創造する、社会福祉のスペシャリストを目指しています。

保育学科で学んでいること、手遊びや歌などを学生が紹介。前身の長野県保育専門学院が1953年に開設されてから、保育学科は、子どもたちと共に学び、多くの保育士を長野県内に輩出しています。



ごちゃまぜトークセッション「未来のかるた」作りワークショップ

〈流れ〉

その1 自己紹介 グループに分かれてスタート！

その2 みんなでわいわい!! 準備活動(おたのしみ)

その3 「未来のかるた」作りワークショップ

- ・地域の中の多様な世代での活動を話してみよう。
- ・今も続く地域の暮らしの知恵や言い伝え、行事など、未来に若い世代が伝えていきたいもの・こと・暮らしについて、世代ごちゃまぜで話しましょう。

その4 かるたの読み札(風)にまとめてみよう。

その5 グループごとに紹介





「未来のかるた」を発表

お
思いやり
人も車も
忘れず

き
きらきらの
瞳の先は
輝く未来

ま
まずは
動こう
私から

の
狼煙上げ
希望の未来に
つなげよう

よ
寄ってくじやん
縁側で
一休み



す
諏訪湖は
みんなの
心のふるさとよ

は
はじめよう
手話で伝える
あなたの気持ち



や
やっと思えた
スマホから
「のらぎ」呼んで
出かけるずら

た
ただいまと
言える場所
いつまでも

こ
小泉山
富士の山
見えて風涼し



み
みんな
つなげる
笑顔の輪

は
ハッハッハ！
歯を大切に
あかるい笑顔

ま
待ってるよ
人の出会いと
やさしさが

れ
レコードで
昔を思い出し
認知症防止

こ
こんにちは
声かけあって
元気よく



参加者から

手遊びは皆さんとてもあたたかくやってくださって、とても嬉しくなりました。交流ではいろんな思いが込められたカルタを皆さんで作ることができて、すごくステキな経験になりました。



最後まで皆さんと笑顔で楽しくできた時間だなと思いました。普段は接することのない方々と交流ができて、新しいつながりができたことをうれしく思います。



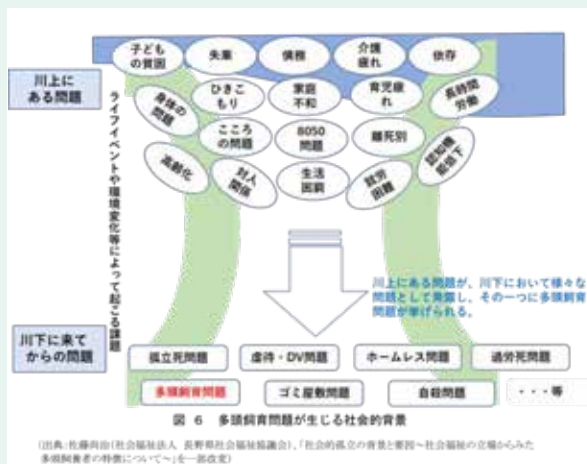
若者が元気がない時代です。世代を越えて一緒にしゃべりをする事で相互理解を深め、お互いに力をもらおう。お互い様の意識はすごく大切だだと思います。アクティブシニア(行動的で元気な高齢者)から学ぶ、高齢者も学ぶ。お互いの学び合いを教えてくださいました。



住民の力・ボランティアの力 人間と動物の関係を考える



多頭飼育問題に関する「学び」「協議」「研究・発信」の場、チームTAG。メンバーの行政職員、ボランティア、動物病院院長らの現状報告をもとに課題を共有し、動物と人のよりよい関係を考えました。



多頭飼育問題が生じる社会的背景 川上と川下の問題

🐍 クロストーク (行政編)

課題共有

地域の過剰繁殖している猫の手術を担当し、各地の多頭飼育問題などの勉強会に出向き、啓発活動を続けています。



コーディネーター
松木 信賢さん
しんけん動物病院 獣医師

ある住民の猫への不適切な飼育対応問題をきっかけに、動物愛護の活動と飼主への福祉的なアプローチをつなぐ取り組みが必要となり、まいさばの声がけでメンバーが集まり、チームTAGが形成されました。

川上の問題として、ひきこもり、失業、生活困窮などライフイベントの事象が発端となって、川下に多頭飼育やごみ屋敷などいろいろな問題として出てきます。その方々の生活の再建があれば、動物の面倒を見られるケースも多くあります。動物を適正な数で飼育できる管理状態になれば、引き取る数も減らすこともでき、ボランティアの負担軽減につながります。

長野県動物愛護管理推進計画も進められていますが、課題は、動物の適正飼育に対する地域住民への普及啓発です。そこには福祉の土壌などの地域差があり、助成金制度がない市町村は相関的にボランティアが少ないという現状もあります。

川上の蛇口を閉めるために、行政、保健所、ボランティア、社協が連携し、チームで対応することが求められています。

一昨年、長野県動物愛護管理推進計画を見直し、猫問題、多頭飼育、動物取扱業者等への対策などを重点に施策を進めています。

登壇者
及川 悦子さん
長野県健康福祉部食品・生活衛生課
乳肉・動物衛生係 係長



地域住民の動物の愛護、福祉に対する考え方が強ければ、ボランティアさんも多い。意識を育む普及啓発が課題です。

登壇者
須田 正典さん
長野県食品・生活衛生課 動物担当



多頭飼育問題は、人の問題です。動物愛護の部局だけでは解決できない、人への支援をみんなでやっていくことが大切です。

登壇者
福井 秀樹さん
長野県諏訪保健福祉事務所
食品・生活衛生課 企画幹兼課長



東御市では行政、ボランティア、社協との連携体制を整え、飼い主のいない猫の不妊去勢手術に対し補助金の交付も始めています。

登壇者
笠井 昌鷹さん
東御市生活環境課生活安全係



🐈 クロストーク (ボランティア編)

課題共有

ボランティア同士が活動の情報を共有し、川上の蛇口を閉める予防としての横の連携を深めていただきたい

コーディネーター
藤井 美和さん
上田保健福祉事務所



こんな意見が交わされました

「TNR活動において、手術や捕獲器、治療など費用を場合によってボランティアが負担することが多い」
 「多頭飼育や猫の過剰繁殖の問題は**地域の問題**であり、**主体は地域住民**。行政やボランティアはあくまでその取り組みをサポートする。一番は**地域が頑張らなければならない**」
 「動物愛護の活動をする人々に対して**偏見を持つ人が多い**。ボランティアも犬猫が好きな人だけの活動になってしまっはいけない」
 「行政や保健所との**縦の連携**と、悩みを分かち合い、情報を共有し合える**ボランティア同士の横のつながり**が必要」
 「地域の中で、動物愛護の団体・ボランティアの取り組み内容を知ってもらい、課題共有をはかる普及啓発が必要」

行政とボランティアが餌やりさんの現場に同行して対応するのが効果的です。



登壇者
青木 理恵さん 松井ルミさん
NPO法人一匹でも犬・ねこを救う会

不幸な猫がいなくなる社会、保健所収容ゼロが目標です。行政は助成金などの仕組みをつくって、サポートしてほしいです。



東野 律子さん
動物愛護グループ ハッピーテール (上伊那)

TNR活動は、個人レベルでは対応できません。各機関と連携し、地域猫活動の仕組みづくりが必要です。

自宅で不妊・去勢手術のクリニックをオープン。保健所の方との協力体制は欠かせないことを実感しています。

福本 麻子さん
諏訪TNRクリニック開設
長野県動物愛護推進員



🐈 全体セッション (意見交換)・まとめ



一人でマイナス10を抱えるのは大変だけれど、みんなですぐにマイナス1や2を負担しあえばプラスにすることができます。



まとめ

- 異業種やいろいろな立場の人たちが連携し、課題を共有してそれぞれができることをする。行政が中心となって風通しをよくする。
- 地域住民の意識を広げるための普及啓発の具体的な取り組みとして、各地での勉強会・イベントの開催、行政や社協の広報誌・コミュニティFMなど放送媒体の活用、自治会への働きかけ、子どもへの学校教育による周知などを行う。



進行
佐藤 尚治
長野県
社会福祉協議会

対策が進んでいる事例は、必ず社協が絡んでいます。行政と地域住民、ボランティアをつなぐ社協を上手に活用して下さい。

- * TNR Trap・Neuter・Return (トラップ・ニューター・リターン)を略した言葉で、捕獲器などで野良猫を捕獲(Trap)し、不妊・去勢手術(Neuter)を行い、元の場所に戻す(Return)こと。
- * 地域猫活動 飼い主のいない猫による糞尿や鳴き声などの問題を地域の環境問題として捉え、地域住民の合意のもと、住民活動グループが主体となって不妊去勢手術や一定のルールに基づいた餌やり、トイレの管理などを行う活動。



まとめグラフィックレコーディング



グラフィックレコーディング
西澤 智美
長野県社会福祉協議会

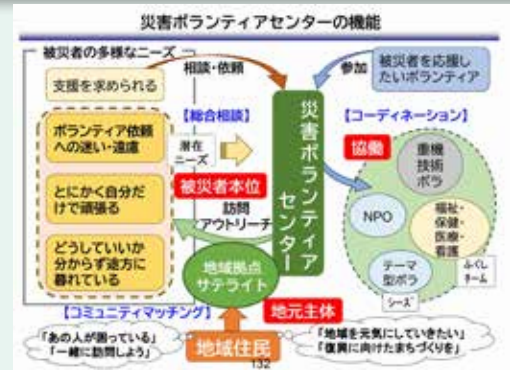
以前、多頭飼育とゴミ屋敷の問題事例があり、支援会議でボラセンの担当者から動物愛護協会の方がいるからと相談にのっていただき、解決したことがありました。行政、ボランティア、各機関それぞれができることをする役割分担は大切です。



災害ボランティアセンターの力を信じて 防災・企業・社協の連携を語ろう！



地域に根ざしつつ、足りないものをボランティアな力で創り上げていく、災害ボランティアセンターを軸にした被災者・被災地支援のあり方を模索しました。



実践報告 日ごろの地域防災活動の展開について

実践報告

地域の防災力の向上、避難所開設の支援、災害ボランティアセンター運営の応援を3本柱に活動しています。

登壇者

笠原 敏彦さん

諏訪防災ネットワーク 副代表



当会は行政で対応できない防災福祉をサポートしようと、防災士、看護師、介護士、地区役員などの有志で令和2年に発足しました。7月には諏訪市と協定を結び、防災士の育成、啓発活動、研修会への参画、危機管理のリストの情報交換などを行いました。私が東日本大震災の被災地で学んだことは、普段やっていないことは、緊急時に絶対できないということです。

防災士会員は職種も幅広く、地区防災活動を率先するため、防災知識と技術の研鑽に努め、自治体や各団体との連携を深めています。

登壇者

大久保 隆志さん

日本防災士会長野県支部



私たち長野県支部は、県内全域の防災士同士のネットワークを構築することができる唯一の団体です。隣町の自主防災会が何をしているのかをあまり知らない。情報を共有し合い、それぞれの良いところを取り入れれば防災力の向上につながります。私たちはその役割ができればと考えています。各団体や行政と力を合わせ、オール信州で取り組む必要性があります。

一般のボランティアにとって、時間や活動資金など限界があります。行政、社協にはがんばっていただきたいです。

登壇者

村田 憲明さん

長野市災害ボランティア委員会



当会は、各地で起こる災害に対して、多様な市民の参加とアイデアで、被災地支援活動を行っています。また、地域防災について様々な市民・団体とのネットワークを構築しています。災害時支援で重要なものは、顔の見える関係づくり、立場を超えた横のつながり、情報共有、コーディネート機能が挙げられますが、私は特に行政・社協のリーダーシップを期待します。

障がいのある方が災害時に安心して避難や支援を受けられるか、当事者発信の勉強会を開催。情報の収集・伝達の効率化が鍵です。

登壇者

北原 由紀さん

岡谷市消防団本部 副分団長
長野県災害派遣福祉チーム (DWAT) 所属



障がい児者の相談支援専門員として勤務する下諏訪町の法人で災害時避難計画の勉強会を企画・開催しました。平成18年豪雨災害時、避難しない住民が多かったという経験から、特に障がいのある方や高齢者の避難をどうするか、平時から地域住民に知ってもらい取り組みと結びつけています。大事なものは、ロジスティクス(人員確保・物資輸送管理、連絡調整)です。



実践報告 市町村を超えた広域のバックアップ

実践報告

災害ボランティアセンター応援企業パートナー「サスながの」に賛同いただける企業を全県域を広げていきたいです。

田村 哲平さん

損害保険ジャパン(株) 長野支店
法人支社(サスながの事務局)



地域でできることは地域で、できないことは三者連携+α、広域で助け合う。それで足りないものはみんなで作っていき出すことです。

登壇者

山田 健一郎さん

(公財) 佐賀未来創造基金
コミュニティー財団 理事長

(一社) 佐賀災害支援プラットフォーム 共同代表



当財団は、市民や企業の皆様から寄付を集め、市民活動団体などに助成する仕組みづくりとサポートを行っています。

災害時における活動支援では毎年のように大災害があり、中小規模での支援が行き届かないため、佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)を2018年9月に立ち上げ、現在約60以上の団体に賛同いただき、法人化しました。

主な活動は、支援が円滑にできるように、有事・平時問わず被災地の状況、支援団体の活動状況を把握する情報共有会議(葉隠会議)・研修会の開催、行政・社協・地域CSOの三者連携の推進などです。令和5年夏の九州豪雨災害では、佐賀市と唐津市で支援に参加し、初動時から社協と連携して、農地や神社仏閣、危険度が高い土砂の撤去作業などを行いました。NPOを広域調整するOPEN JAPANや災害NGO結のような存在は不可欠です。財団では民間団体がもっと増えていけるよう助成を強化していきたいと思っています。

*地域CSO CSOはCivil Society Organizations(市民社会組織)の略。佐賀県では、NPO法人、市民活動・ボランティア団体に限らず、自治会・町内会、婦人会、老人会、PTAといった組織・団体を含めて「CSO」と呼称し、地域課題を一緒に解決していく取り組みを推進している。

被災地のニーズ班がアナログ情報を集約し、愛知の社員ボランティアがデータ化。秋田市災害VCの運営をリモート支援しました。

登壇者

諸留 逸さん

トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部
共生社会推進室 モビリティフォーオール
グループグループ長



自然災害の頻発化によってトヨタらしい被災地支援ができないかと、2016年からトヨタ災害復旧支援の取り組みを始めました。主な活動は災害ボランティア支援、VCの運営支援、モビリティ支援(車両の貸出)、車中泊避難支援の4本柱です。2013年には豊田市と支援協定を結び、社内災害ボランティアコーディネーターの育成のため、約270人が社協の養成講座を修了しました。

災害VCの運営において、ニーズは大変重要で、支援活動の根幹です。今年7月の豪雨災害では、kintoneを活用した秋田市災害VC運営を初めてリモート支援しました。現地支援のニーズ班が情報収集の中心となり、アナログのニーズ票を愛知の本社でデータ化し、支援活動につなげました。

何事も最初の一步を動かすことは大変ですが、今後も私たち企業ができることを取り組み続けていきたいと思っています。

民間の力を主体に、企業団体の意思を尊重した地元の支援ネットワークの体制を構築中。

資料提供

上伊那災害時支援ネットワーク

伊那市および伊那市社協では、災害時の被災者支援の強化として、企業・団体と三者連携した平時からの体制づくりを検討。準備会で賛同企業が広域の取り組みを提案し、上伊那8市町村の連携となる。クラウドによる共有ツールを活用した情報システムの構築、研修・勉強会など連携の仕組みづくりを進めている。



まとめ 災害ボランティアセンターの力を信じて

災害VCは復興や平時の支え合い活動につなげるためにも、地域の防災力を高め、外部支援を受け入れる土壌を育てていく必要があります。

進行

山崎 博之

長野県社会福祉協議会



令和5年9月に、台風第13号災害による福島県いわき市災害VC支援のため、長野DSAT(社協職員による先遣チーム)が活動しました。時間の経過とともに変わる被災者のニーズに対応し、復興のまちづくりや平時の支え合い活動につながるよう、災害VC開設後の運営の安定を図りました。災害VCの運営をスムーズにしていくためにも、住民による地域防災の力をうまく活用していくことが重要です。

参加者から

- 災害時には、平時の課題、平時のつながりがそのまま現れるので、地域福祉の延長線上に立ち返って考えていきたいです。
- 日頃から防災士や市民団体の方々とつながっていないと、災害時に私たち社協は動けないし、住民の方々が安心できないということを今回の報告で実感しました。

阪神淡路大震災、東日本大震災で私もボランティアに関わりました。そうした中でも行政、社協の役割の重要さと、日常的に地域がつながっていることがとても大きな力になることを改めて感じました。





物価高にまけるな 信州に広がる助け合いの輪!



物価高や生活困窮の広がりの中で、フードバンクやリサイクル活動など、各地に広がる助け合い活動と企業、行政関係者の学びと交流を進めます。困窮世帯の実情を共有し、地域ごとに助け合いの輪を広げていくために、ボランティアやNPO、社協、社会福祉法人、行政の連携について考えました。

生活に困窮しても相談窓口に行くことをためらう人が多いという課題があります。ニーズの掘り起こしが必要です。



進行

長峰 夏樹

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティア
センター 所長

実践報告

はじめに

『物価高対応・緊急支援事業』は目に見えないニーズを掘り起こし、その声を行政、まいさばにつなげることを目指します。

登壇者

美谷島 越子さん

長野県中間支援コンソーシアム
NPO法人フードバンク信州理事長



物価高対応・緊急支援事業は、休眠預金を活用して長野県みらい基金、長野県社協、フードバンク信州のコンソーシアムが資金配分団体となり、助成を受けた県下10団体によって食料や日用品、学用品などの緊急支援を行う事業です。

支援を通して目に見えないニーズを掘り起こし、その声を行政、まいさばにつなげることを目指しています。

物価高で苦しんでいる人、将来困窮に陥るかもしれない状態にある人など、必要な方に必要なものを届けるにはどうしたらよいか、みんなで知恵を出し合って困窮を地域で考える多様な取り組みが必要です。

第6分科会では実行3団体からの取り組み報告を通して、新たに見えてきた課題を考えていきたいと思います。

実行団体



実践報告

子ども応援ボックス

応援ボックスの取り組みを通して行政、社協との連携が深まりました。

登壇者

木村 かほりさん

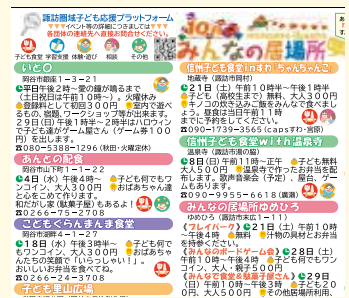
NPO法人信州協働会議



信州協働会議では、子どもの居場所や子ども食堂のネットワーク化を進めている諏訪圏域子ども応援プラットフォームの事務局をしています。今回は活動を発展させようと、休眠預金を活用し、必要な人へ必要なものを届ける仕組みづくりとして子ども応援ボックスの取り組みをしています。

行政、社協、まいさばとも連携し、申し込みフォームに希望する食材・日用品・生理用品などを記入してもらい、それを箱詰めして手渡しています。申し込みや受け渡しの時には困り感の聞き取りをし、私たちが対処しきれないことは各機関につなげます。これまで延べ300人を超える方への支援をしてきました。

食料物資の配達の仕組みづくりでは、LINEのオープンチャットで50名ほどの居場所の仲間が食材の寄付の情報をやりとりしています。



月刊ぶらざ諏訪に居場所の開催情報を掲載

カレー大作戦など伊那市社協の取り組み

カレー大作戦は、子どもの笑顔が一番の目的。地域の力に支えられて継続しています。

登壇者

中村 正人さん

伊那市社会福祉協議会



伊那市の子どもの関係の支援は、行政、社協、民間団体が連携し、**子育て応援**（子ども食堂支援やフードバンク事業などの予防的支援）と**子育て支援**（生活困窮や虐待など緊急性が必要な家庭への介入的支援）の取り組みをしています。

子どもたちに元気を届けようと思った**伊那市カレー大作戦**は、毎月市内約20か所で子育て家庭対象に、カレーを容器に詰めて提供（子ども無料、大人300円）するイベントです。長野県みらい基金による**伊那市子ども笑顔チケットプロジェクト**は、市内の協力飲食店の配布チケットで子どもたちが無料で食事ができます。

休眠預金活用の上**伊那ブロック社協食糧支援事業**では、特別貸付の償還免除世帯に月1回6ヶ月にわたって食糧と生活物資を250世帯に配布しました。また、困窮世帯の子どもたち対象の**ふれあい食堂**は、公民館とボランティアの方々の協力を得て学習支援と食事提供をしています。

これらの取り組みは、次のステップにつながるきっかけとして、地域を巻き込み、飲食店や学校などの協力を得ながらできていると思っています。

北アルプスから松本平までチャレンジを届けよう

支援を受けることへの戸惑いと価値観の多様化を実感しますが、継続は力なりだと思います。

登壇者

松澤 重夫さん

NPO法人北アルプスの風障がい福祉部長・地域づくり支援課長



私たち法人では、①**障がい者支援事業所（就労系）**による生活困窮者の方への**食料・物資無料支援**と、②**若者対象の資格取得（介護関係の資格と自動車普通免許）**支援に取り組んでいます。

①では、食糧等支援の物品の仕分けや配送等に関わることで、**障がいのある方の就労**に結びつき、社会貢献による地域啓発につながる事業だと感じています。

②は、周知不足と時期的な問題で募集がなく、普通免許は関係機関との調整がうまくいかず、未実施の状況ですが、**可能性はあるので**今後も取り組みを継続していきます。

取り組みに際しては、大北地域の**市町村社協と連携**し、実施体制の整備を進め、**月1回定例会**で市町村ごとの状況や課題等を共有しました。また、**教育委員会**や**子育て支援課**への情報提供を行いました。

今回の事業で**各機関との関係づくりが進んだ**ことは、とても良かったと思っています。



意見交換

総評

アウトリーチとニーズ把握で行政支援が届かない人にアプローチする取り組みを継続していきたい。

登壇者

高橋 潤さん

長野県みらい基金理事長



今回の**物価高対応・緊急支援事業**は、行政支援では届かない**アウトリーチの支援**と**ニーズ把握に向けた支援**が大きなテーマとなっています。食糧支援の戸別訪問で対話によってのニーズ把握や、手に職をつけて収入の道をつけるというチャレンジもありました。

今回のコンソーシアムもいろいろなステークホルダーの人たちとつながり、今まで**それぞれに活動していた人たちが一緒になって取り組むことで、地域の多様なニーズに対応できる**ということが分かりました。

これらの取り組みを継続していくために、活動成果をどう次につなげていくかを皆さんと考えていきたいと思っています。

参加者の課題から

◎必要に迫られていなくても、あれもこれも欲しがるといわれる「くれくれ星人」の方がいます。

◎「困っていたら相談先を紹介しなすよ」と言うと、「そこまではいい」と言われ、どこまで困っているのかを探れない方がいます。

◎どんな要望にも応えてしまうと、イネイブラーになって共依存の関係になるのではないかと心配があります。

◎支援物資を届ける際、家の場所がわからず、電話をかけても出られない方がいて困りました。電話に出ることに戸惑いがあると感じました。

●ショートメールだったら返信してくれる可能性が高いと思います。

●金銭の使い方が粗いのかもしれないので、社協としては何が困窮の原因かを知り、弁護士や関係機関との連携を図り、対応しています。

生 生活困窮のニーズにどこまで応えたらいいのか、**ボランティアの方自身**が**ジレンマを抱えていることはすごく素晴らしい**と思いました。

本当に困っているとは言えない状況の中で、申請制度による行政の公平平等の支援ではカバーできない方々に寄り添うことができるのは、

ボランティアの柔軟性です。不公平不平等でもいい。「頂戴、頂戴!」と言う人は何人かはいるかもしれない。けれども、おしゃべりして**顔の見える関係をつくっていけるプラス面**はすごく大きい。やりすぎかなと思いつつも**動き続けることで、行政の枠組みと重なり合う協働の部分**をどれだけ**つくっていけるか**が大切だと思います。





諏訪圏青年会議所メンバーが中心となって障がいのある方も含め、いろんな方がスタッフで炊き出しブースを開設！

活動報告

活動報告

諏訪圏青年会議所は、地域に根ざし、地域のために何ができるのかを真剣に考え、まちづくりに直結する活動を続けています。

登壇者

諏訪圏青年会議所 各理事委員長

諏訪圏青年会議所は、20歳から40歳の青年経済人の集まりで、6市町の諏訪圏域を活動エリアに「ひとづくり」「まちづくり」「青少年育成」「国際交流」など多岐にわたる分野で活動を続けています。

2023年度は第一の事業として、災害・まちづくりグループで更生保護を含む社会保障についての調査活動を進めてきました。12月には各団体から収集した課題をまとめて、地域がどのようにすればよりよくなるのかを長野県に提言します。

また、災害関連では1年間を通して自助・共助・公助を学び、平時からの身近な防災意識の周知啓発、諏訪市社協との災害協定の改定（駐車場、資機材提供を追加）、すわけん防災フェアin富士見町の開催などに取り組んできました。

青少年育成関連では、コロナ後により、わんぱく相撲を入場制限なしで盛大に開催することができ、地元にも子どもの笑顔があふれました。

全国各地にあり、世界規模でネットワークをもつ青年会議所（JCI）は、地域のためには何ができるのか真剣に考え、まちづくりに直結する活動をしている団体です。本フォーラムのように各団体と協働してさまざまな取り組みができれば、地域がより良くなると思います。



すわけん防災フェア in 富士見



災害支援ボランティア



防災フェア 防災ダンス



諏訪湖ビューティー大作戦



わんぱく相撲諏訪圏大会



諏訪圏フォーラム

ずくとあいがつくる居場所

“助け上手・助けられ上手”のすすめ

総評

「敷居は低く、志は高く！」をモットーに、ステキな実践があったら TTP CK で「参与→参加→参画」の提案型福祉を！



コーディネーター

新崎 国広 氏

(一社) ボランティアセンター
支援機構おおさか
ふくしと教育の実践研究所
SOLA(Social Labo)主宰



分科会ごとにまとめを発表し、新崎先生がコメントしました。

メッセージ

まちづくりとは、
幸せのために行動することです。



保科 千丈 氏

長野県福祉大学 校長

諏訪には7年に一度執り行われる神事の御柱祭があります。諏訪6市町村の氏子の皆さんはとても大変ですが、みんなで力を合わせて御柱を立ち上げる。立ち上がれば楽しい打ち上げが待っている。疲れた顔でお酒を酌み交わしながら、最後に「ああ良かった。幸せだ」と皆がつぶやくのです。

私は、まちづくりとは、幸せのために行動することではないかと考えます。

自分が幸せで、人が幸せであること。幸せが増える地域、社会であること。そこに向けて自分で考え、行動すること。それがまちづくりの基本であり、間違いなく**目指すゴールは幸せ**と言えるのではないのでしょうか。

福祉大の「社」も「さいわい」と読みます。幸福です。福祉大は、**幸せにアプローチする学校**です。今日はそんなご縁からフォーラムの会場として、皆さんと幸せを考え、**幸せを感じる場所**になっていただけたのなら福祉大にとって、私にとっての幸せです。今日の先にある幸せに、皆さんのますますのご活躍を期待いたします。

「もしも一つの社会立法をつくったがために、ボランティアを失わなければならないとすれば、私は最善の法律より100人のボランティアを選ぶ」。ソーシャルワーカーの母と呼ばれるメアリー・リッチモンドの言葉です。私の大好きな言葉で、今回のフォーラムを象徴していると思います。

「つながり」が本日のキーワードではないでしょうか。**みんな違ってみんないい**。行政、NPO、ボランティア、企業、それぞれの考え方や活動は違うけれど思いは一つ。**大切なのは、「誰も独りぼっちにしない」という目的を共有すること**です。各分科会それぞれでそんな話し合いを聞くことができました。

ボランティア活動に大切なことは、お互いに自立を助けていく**相互実現型自立(助け上手・助けられ上手)**です。今までの自立は、「自分のことは自分です、他人に迷惑をかけない」でした。しかし、それでは孤立がどんどん進んでしまいます。東京大学先端科学技術研究センター准教授の熊谷晋一郎氏は、**自立とは「依存先を探すこと」と**言います。**お互いできることをやりながら助け合っていく**社会が素敵ではないかと思います。

ボランティア・市民活動活性化のモットーは「**敷居は低く、志は高く!**」です。参画するのに資格なんていりません。今日のグループワークのように、面白そう、楽しそうとみんなが集まれば素敵な仲間の輪ができ、話し合いがご縁になってネットワークがつながっていく。参加で終わるのではなく、知恵を出し合い、一緒に企画することが最も楽しく心が元になります。そんな**「参与→参加→参画」の仕組みづくり**が大切です。

活動を企画・実践する時に、皆さんぜひ覚えていただきたい言葉があります。それは**TTP**です。まわりにステキな実践があったら、「ここはいただき」と**徹底的にパクる**。付け加えると**TTP CK**です。**徹底的にパクってちょっと変える**。そんな実践ができれば一人ひとりが笑顔になれると思います。

制度によるセーフティーネットの整備充実はもちろん、これからは行政の下請けではない**提案型福祉**がとても大切になってきます。「私たちの取り組みはこういう意義があるから制度としてつくってください」「もっとより良い制度にしませんか」と**汗をかくけど口も出す**。その**独立した協働性がボランティアの価値**だと思います。

本日はありがとうございました。



まちボラ 2023.12.2
フォーラム

性善説 II
ボランティア活動力
つながり
「みんながいて
みんないい」
でも
目的を共有
明確に
活動力は違っても
思いはひとつ

無関心さが孤立孤独を産む
公平 平等
「知る」こと!!
山田選手より
ユニバーサルスポーツ
起超高齢社会
人は年をとると不平等になるわけじゃない
アクティブリティから学ぶ

分科会1 73名
ボッチャ体験
11-7 練習

ココに
思い
入って
しまふ

分科会2
大切なことを
あきらめない

分科会3
世代間交流!

チームTAG
分科会4
動物と人の関係を
考える
おはなご負担を
わからぬ

分科会5
受電ボラセンの
力を信じて
地域福祉の延長
平時からのつながり
それぞれの強みを
もちよう

分科会6
申請書
「私も
もっと
頑張る
人を探
かけて
下さい」
本日に
因、
これ
も
できる
こと
です

申請書
「私も
もっと
頑張る
人を探
かけて
下さい」
本日に
因、
これ
も
できる
こと
です

「学ばないと
出会い
お話し
して
深めれる」

「学ばないと
出会い
お話し
して
深めれる」

「学ばないと
出会い
お話し
して
深めれる」

TTP CK
事例は徹底的にパクリ
してちょっと考える

2日目 まとめセッション グラフィックレコーディング
作成:西澤智美 (長野県社協)



長野県まちづくりボランティアフォーラム2023

- 主催 長野県社会福祉協議会
長野県まちづくりボランティアフォーラム実行委員会
地元協働団体会議、長野県生活協同組合連合会
長野県長寿社会開発センター、信州くらしの支えあいネットワーク
まちづくりボランティアセンター運営委員 等
- 共催 諏訪ブロック社会福祉協議会
長野県福祉大学校
- 後援 長野県、諏訪市
長野県民生委員児童委員協議会連合会
- 協力 諏訪圏青年会議所

